



2024年2月14日

各 位

会 社 名 ビープラッツ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 藤田 健 治
(コード番号：4381 東証グロース)
問 合 せ 先 取締役副社長 伊 藤 淳 一
(TEL. 03-6262-9427)

連結業績予想の修正及び個別業績予想に関するお知らせ

当社は、2024年2月14日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、昨2023年5月12日に公表しました2024年3月期（2023年4月1日～2024年3月31日）の連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

なお、当社は、個別業績予想を開示しておりませんが、2024年3月期の個別業績の予想値につきまして、前年実績値との間に差異が生じる見込みであるため、併せてお知らせいたします。

記

1. 2024年3月期連結業績予想数値の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （2023年5月12日発表）	百万円 1,107	百万円 287	百万円 280	百万円 202	円 銭 84.30
今回修正予想（B）	882	△126	△128	△147	△60.94
増減額（B－A）	△225	△413	△408	△349	—
増減率（%）	△20.3	—	—	—	—
（ご参考）前期実績 （2023年3月期）	945	180	176	182	76.55

2. 2024年3月期個別業績予想数値（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績（A）	百万円 937	百万円 179	百万円 176	百万円 183	円 銭 76.62
今回業績予想（B）	875	△129	△131	△151	△62.60
増減額（B－A）	△62	△308	△307	△334	—
増減率（%）	△6.6	—	—	—	—

3. 連結業績予想の修正及び個別業績における前年実績値と個別業績予想値の間に差異が生じる見込みとなった理由

<連結業績予想修正の理由>

売上高は、当社において、直販案件での販売及び販売パートナー経由の販売ともに期末に向けて積極的な営業活動を継続しておりますが、当連結会計年度の下半期において、例年ほど大口案件の積み上がりが見込めず新規案件における初期費用等のスポット収入が期初計画を大幅に下回る見込み（期初計画比35.8%減）となりました。また、当第3四半期連結会計期間末における契約社数は順調に増加（前年同期末比42社増/同23.4%増）し、当第3四半期連結累計期間におけるストック収入は着実に増加（前年同期比30百万円増/同7.2%増）しているものの、期初計画比では新規契約において直ちにはストック収入の大幅な伸びに結びつかない比較的小型の契約も多く、ストック収入（月額固定等）全体では期初計画を下回る結果（期初計画比11.9%減）となりました。これらの結果により、売上高の計画比未達を余儀なくされることとなりました。

営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は、売上高の期初計画比未達に加え、売上原価において、通信インフラコスト（主としてAzure）が、主力製品バージョンアップに伴い必要となる新旧環境移行（上半期より順次実施）による環境重複や環境整備等のコスト影響が期初計画を大幅に超える見込みとなり、重複環境等の削除、適切な環境サイジング、適正な環境条件設定など、当該コスト圧縮策の策定と改善に向けた活動を進めてまいりましたが、当第3四半期連結会計期間末においても、未だ期初計画程度までの十分な削減の実現には至らない見通しとなったことなどから、売上原価が期初計画比大幅に増加する見通し（期初計画比64.6%増）となり、利益面でも前回発表予想を大きく下回る見込みとなりました。

なお、来期につきましては、現在策定、実行中のコスト圧縮策を引き続き行うことで通年においてその効果の実現が期待できるものと考えております。

<個別業績における前年実績値と個別業績予想値の間に差異が生じる見込みとなった理由>

売上高は、連結と同様の要因により、前年実績値との間に差異が生じる見込みとなりました。また、営業利益、経常利益、当期純利益についても、連結と同様の要因により、前年実績値を下回る見込みとなりました。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後発生する様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上